

感謝状授与

古澤久四郎前会長

8月24日北信選手権大会において北信陸協より感謝状が授与されました。

先生は平成3年から15年3月まで12年間の長きにわたり、長野市陸協の会長を務められ、その間北信選手権大会の大会運営等にご尽力をいただきました。長い間ご苦労様でした。



秩父宮章受章

藤本勝彦先生

去る10月27日『ニュー富士国体』において日本陸連より最高の章である秩父宮章を受章されました。

先生は高校の教師として選手の育成に、また、陸協では数々の委員長を歴任され、高体連、陸協のために御尽力されました。おめでとうございます。



平沼記念章受章

碓井真先生

指導者に贈られる平沼章を『ニュー富士国体』において日本陸連より受章されました。

先生は長野日大高校で数々の優秀選手を育成されました。また、今年は、駅伝でも女子が優勝しました。おめでとうございます。これからのご活躍をご期待申し上げます。



題字の“動き”は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号が発行されていました。

長野市陸協会報

第3号

平成15年12月7日

発行所 長野市陸上競技協会
発行人 浦野義忠
編集人 早川千吉郎

長野市チーム県縦断駅伝7回目の優勝 おめでとうございます

今年は例年になく順位の変動する、白熱するレースが繰り広げられました。

わが長野チームは両日ともにトップに出ることができず、苦戦の連続でしたが、初日は最終区間で逆転し、第1日目は優勝。最終日は15区でトップに立ち、そ

のままアンカーにつなぎ、完全優勝という素晴らしい成果を収めてくれました。

『今年こそは優勝』を合言葉に一年間頑張ってきた成果が実り、通算7回目の優勝を果たしてくれました。長野市駅伝部、おめでとうございます。

▼7回目のゴールを切る中村守選手



研修旅行のご案内

長野市陸協では、初めての試みとして、会員の皆様の融和と1年間の慰労を兼ねて1泊2日の旅行を2月21日(土)22日(日)に計画しております。

目的地につきましては考慮中ですので、良いアイデアがございましたら理事長及び総務部長までご連絡ください。近日中にはご案内いたしますので、ふるってご参加の程よろしくお願いします。

編集後記

近頃の天気予報に依りますと、平年より暖かい日が続いているようです。それにしても、暦は12月の師走を迎え、肌寒さを感じる季節となりました。

スポーツ(陸上)を愛する審判員の方々、体調はいかがでしょう?今年の冬もインフルエンザが流行しそうな気配です。体調に留意されて、経験豊かな先生方から経験の浅い審判員に、選手やスタンドの皆様には喜ばれる審判の印象付けができますようにご指導をお願いします。また、長野陸協50周年誌が残り僅かになりましたので、ご協力をお願いします。(早川)

SHINANOMATE
SENSITIVE BRAND GOLF EQUIPMENT FOR ALL OCCASIONS



ATHLETIC UNIFORM

株式会社 **しなのメイト**

〒389-0606 埴科郡坂城町大字上五明992-2
PHONE (0268) 81-1336
FAX (0268) 81-1337

思い出の写真シリーズ

◆ 第1回目 ◆

第32回県縦断駅伝初優勝(1983年)を振り返って

第52回長野県縦断駅伝が終了したとき、あの常勝上伊那(4位)の姿が小さく感じてしまいました。

長野市と常に優勝争いをしてきた上伊那チームが1度もトップに立てない大会は見たことがありませんでした。その不調にたいへん驚きました。

長野市の今大会の勝因は、企業チームの影響が及ばなくなって、どのチームも平均化されたチームになってきているからだと思います。

私は、第12回(1963年)大会から出場し、第31回(1982年)から監督に就き、32・33・45・46・49回と6回の経験をしてきました。自分の陸上経歴20年目(1983年)の節目の歳に夢に見た初優勝ができました。しかも南信地区から初めて優勝旗を北信地区へ持ち帰り、北信地区の他チームの関係者の皆様からたくさんのお言葉を戴きました。

▼ 第32回県縦断駅伝競走大会(長野～飯田)初優勝 長野市チーム S58.1.1.12~13



長野市駅伝部長 土川 国人

初優勝の原動力となったエピソードがあります。当時長野市には峠を得意とする選手がならず、北野建設の距離選手を派遣して貰いました。佐々木雅俊選手が全日本合宿の北海道から駆けつけてくれました。革手袋をして距離スキーのイメージで走り、上伊那を抜いてトップに出ました。

当時長野市は富士通長野から全選手が出場してありました。上伊那チームの、養命酒・NECといった企業選手と対抗しての勝利は、20年の夢が実現し、たいへん感動いたしました。その時は、このまま連勝が続くかと思いましたが、第38回(1989年)から居住地が第1と規定が変更になり、長野市周辺地域から富士通へ通勤していた選手が地元からの出場となり、以後上伊那に12連敗を喫していました。企業の繁栄を表されることも興味あるところでした。

長野市チーム 県駅伝優勝を長野市長に報告

県縦断駅伝に優勝した長野市チームは、11月18日、鷲澤正一長野市長に優勝報告の表敬訪問を行った。市長もたいへん喜んで、「今年は、高校野球では長野工業、都市対抗野球ではNTT信越クラブが全国大会へ、そして駅伝で優勝と、今年は長野市民が活躍してくれてたいへん嬉しい」と、選手たちと1時間もの長

い間歓談して下さいました。

その後、日頃お世話になっている堀体育課長、山本体育協会専務理事に、駅伝チームが日頃良い環境の中で走れるように、要望事項等を監督と選手から出してもらい、来年につながるようお願いしました。

▼ 鷲澤市長よりお祝金をいただく高野主将



選手が気持ち良く練習できる環境作りの実現

選手たちが、安心して練習できるようにと体育課および体育協会へ足を運び、様々な要望をしてまいりましたが、昨年はサブトラックに照明灯を立てていただき、陽が短くなる秋の練習にはたいへん効果があり、うれしい限りです。また、今年は、長年重くて運ぶのに苦労がありました演台を買っていただいたり、サブトラックに懸案でありました時計をつけていただけるようになり、私たちの要望が1つ1つ実現してたいへん有難く思います。これからも皆様方の要望が実現しますよう働きかけていきたいと思っています。



第52回長野県縦断駅伝大会を振り返って

監督 田中 哲広

去る11月15日16日の両日、第52回長野県縦断駅伝競走大会が晴天の中、行われました。郷土の期待を背に、15チームが参加、15日午前8時30分、信濃毎日新聞本社前を号砲の音とともにスタートしました。

わが長野市チームは、当初予定していた選手が怪我のため出場できなくなり、選手の入替えを余儀なくされました。

急遽2日目のアンカー高野が、初日の1区を走りましたが、ベテランらしい粘りで、区間3位という、後に続く選手に勢いを与える素晴らしい走りでした。

2区ではいったん6位に後退したものの、3区大久保、4区土屋の国体代表コンビが活躍、7区前島の7年振りとは思えぬ堂々とした走り、8区上野ヘタス

キをつなぎ、この日初めて長野市が先頭を奪いました。9区でふたたび逆転されましたが、11区徳武が区間新の走り、全諏訪を再逆転、初日の優勝を飾りました。

2日目も、選手1人1人が実力を十分に発揮し、14区横谷、15区中村好の連続区間賞の好走でトップに立ち、その後も先頭を譲ることなく、2年振り、7回目の優勝を成し遂げることができました。

今後はこの優勝を自信にして、選手1人1人がよりレベルアップを計り、強いチームを作りたいと思います。

この場をお借りして、私たちが心から支援して下さった皆様に感謝申し上げますと共に引き続きご指導の程、よろしくお願いいたします。

第52回長野県縦断駅伝大会を振り返って

主将 高野 和彦

大学・実業団と9年間『走ること』にどっぷり漬かっていた私が、帰郷したのが6年前。現役で走れるうちに、長野に戻って役に立ちたいと考えていたことが実現したこと、9年ぶりに帰っても皆がとても暖かく迎えてくれたことが嬉しかったことを昨日のように思い出します。

長野市駅伝部の仲の良さ、雰囲気の良さは昔から抜群で、「コミュニケーション」という面ではどんなチームにも負けないチームです。今回の第52回長野県縦断駅伝は、そんな良い面がフルに出たレースだったと考えております。

レース1週間前に主力選手が怪我、4日前にはエントリーしていた高校生が使えなくなるなど、今まで経験したことがないようなアクシデントが続いた中での

大会も、監督をはじめ、選手の体調・性格をしっかり把握できていたこと、選手との関係が良く急な区間変更も快く引き受けてくれ、またそれに応えられる練習を個人、個人の意志で出来ていたことが優勝につながったと確信しています。

「楽しい中にも厳しさを！」これが長野市駅伝部に昔から脈々と受け継がれている力だと感じています。

最後に、私は、自分が指導していただいていたように、若い選手たちに「勝ち喜び」と、「その為には何をしなければならぬのか」を伝えていくこと、より走りに集中できる環境作りをしていくこと、そして、素晴らしい選手を育成する一翼を担えるように、これからもできる限り頑張りたいと思います。

駅伝へのご支援、ご協力ありがとうございました。

長野市陸上競技協会 会長 伊藤利博

長野市駅伝部の監督、コーチ、選手たちの一生懸命に頑張っている姿を見てきて、今年こそは資金面で何か支援しなければという気持ちで、理事長を中心として企業、会員の皆様方をお願いして参りました。

その結果、多くの皆様方より暖かいご協力のご支援をいただき、感謝の気持ちで一杯です。ほんとうにありがとうございました。

私たちの気持ちが選手たちに通じたのか、圧倒的な強さで優勝することができました。この場をお借りしまして、お礼申し上げます。

ご支援いただいた方々のご氏名及び企業名を掲載させていただきます。 順不動 敬称略

- 古澤久四郎 依田良春 高橋恒和 依田邦夫
 - 小口正行 山本晴雄 西片功 大竹義雄 中村市治
 - 藤本勝彦 白田昭次 伊藤利博 北原勲 柴澤英男
 - 浦野義忠 古田新造 鈴木文雄 平出勲 寺島大士
 - 中澤次生 横谷貴美江 碓井真 早川幸 早川千吉郎
 - 小島君夫 三條俊彦 土川国人 竹内万祐 相沢隆雄
 - 北島正孝 小林靖雄 矢野清隆 戸谷直喜
 - 中央館清水屋旅館 榊長野スター商会 記念館
 - 東急観光長野支店 榊アイフ記章 モトヤスポーツ
 - 榊中屋スポーツ ホテル信濃路 奥アンツーカー榊
 - 尾崎商事榊 柳平幸男 長野ホテル犀北館 榊新陽堂
- 以上

陸上クラブ紹介シリーズ

..... 第2回

長野日大高校陸上部

本校陸上部は昭和34年、開校の年に創部された45年の歴史を持つクラブです。

創部当時はグラウンドもまだ整備されておらず、桑の木の根株を掘り起こし、グラウンドをつくることから始まったと聞きます。

そうしてできたグラウンドの片隅にトラックを引き、野球部、サッカー部等と共有で練習をしていました。

そんな中から昭和50年、円盤投げで国体、インターハイを制した上月正彦君をはじめ、多くの優れたアスリートたちが育っていきました。

現在の陸上部は、部員数も毎年60名を越え、東和田の市営陸上競技場をお借りして、日々の練習に励んでおります。

「克己心」をモットーに、常に向上心も持ち、自ら進んで刻苦、努力し、記録と人間性の向上を目指すことを活動目標としています。

陸上競技は、個人競技と言われます。(確かに

最終的にはそうなのですが。)しかし、日大高校陸上部では、団体競技だと考えています。チームメイトが競い合いながら汗を流し、支え合いながら成長していく、それが理想です。

幸いにも、ここ数年、北信・県大会の学校対抗で好成績を残すことができ、インターハイ等の全国レベルの大会にも出場させていただいております。

選手個々のレベルにおいては、まだまだ未熟な面が多々ありますが、自分たちを支えてくださる陸協の先生方、競技場の方々、そして父母の皆様への期待に少しでも応じられるよう、感謝の気持ちを抱きつつ精進して参りたいと思います。

最後に、去る11月1日に行われた県高校駅伝競技大会において、女子チームが祈願の初優勝を果たすことができました。都大路では県代表としてカー杯の走りをしてきたいと思っております。

文責 碓井 真

